

基本目標5 安全・安心な生活環境の整備

基本施策5-1 子どもの安全確保

施策の方向性 子どもを交通事故や犯罪の被害から守るため、地域・学校・関係機関等との連携を強化しながら対策を進める

参考指標と総合評価

指標項目	基準値	中間値	31年度目標値	総合評価
①子どもの交通事故死傷者数	58人	50人	48人	A
②児童生徒の交通事故(被害)件数	42件	51件	基準値より減少	

①基準値 : 平成25年警察発表値

①中間値 : 平成28年警察発表値

②基準値 : 平成25年度実績値

②中間値 : 平成29年度実績値

秋田市子ども・子育て会議委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	95%	5%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- 小学生以上になると、自転車の乗り方の危ない所(スピードの出し過ぎ、無灯、併走等)を見かける。
- 子どもが巻き込まれる事故、犯罪等のニュースを見るたび、胸を痛める。一件でも減るよう努力してもらい、安心して暮らせる社会にしたい。
- 各地区、小学校の登下校時に地域の住民の見守り、ボランティアが多いと感じる。
- 夜間の防犯のため、町内を明るくすることは大変良い取り組みである。

課題と今後の対応方針

警察発表による秋田市内の子どもの交通事故死傷者数は減少しているが、小中学校からの交通事故報告件数は、27年度40件、28年度51件と増加している。交通事故や犯罪被害の減少を図るため、事故状況を踏まえた効果的な交通安全教室等の実施や各種講習会等の参加者を増やすよう広報・啓発活動に努め、関係機関や地域と連携して安心安全な生活環境の整備を図っていく。

27~29年度の取組・事業

- まちあかり・ふれあい推進事業
- 防犯活動の推進
- 秋田市立小学校警備事業
- 秋田っ子まもるメールの配信
- スクールガード養成講習会の実施
- 通学時における安全確保と適切な指導
- 被害を受けた子どもへの対応
- 各種防災訓練の拡充
- 交通安全教育事業
- 交通安全普及・啓発事業

基本目標5 安全・安心な生活環境の整備

基本施策5-2 子育てを支援する生活環境の整備

施策の方向性 歩道等の道路交通環境の整備や子育て世帯の居住の安定を図るなど、子育てを支援する生活環境の整備に取り組む

参考指標と総合評価

指標項目	基準値	中間値	31年度目標値	総合評価
①歩道整備延長(累計)	11,460m	12,328m	16,080m	A
②園路・広場のバリアフリー化(累計)	109課所	127課所	125課所 ↓(達成) 136課所	
③「居住が狭いことで悩んでいる人」の割合	12.3%	13.6%	基準値より 減少	

①②基準値 : 平成25年度実績値

①②中間値 : 平成29年度実績値

③基準値 : 平成25年度秋田市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(就学前児童・小学校児童の保護者)

③中間値 : 平成29年度秋田市子ども・子育て支援に関する市民意識調査(就学前児童・小学校児童の保護者)

秋田市子ども・子育て会議委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	95%	5%	0%

【委員からの主な意見(要約)】

- 公園の遊具もなくなって、錆びついたりしているものもあるので修理点検をこまめをお願いしたい。
- 不審者のいない街を作ることが目標であり、現時点では良くやっていると思う。
- ひとり親家庭も増えてきて、市営住宅入居希望者が多いと思うので、優先入居制度の充実を進めて欲しい。

課題と今後の対応方針

歩道や公園の整備、遊具の更新には、継続的な予算が必要であることから、国の補助事業により財源を確保し、整備等に努めていく。妊産婦や子どもその他すべての歩行者が安全かつ円滑に通行できる歩行空間を確保するとともに、外出に配慮された施設を増やし、子育てにやさしいまちづくりを進めていく。また市営住宅について、子育て世帯や高齢者が安心して居住できるよう、バリアフリーなどに配慮した整備を行うとともに、子育て世帯に対する優先入居制度等優先措置を継続し、子育て世帯への支援を図っていく。

27~29年度の実施・事業

- 人にやさしい歩道づくり事業
- 公園のバリアフリー化
- 公園遊具施設長寿命化等整備事業
- 土崎駅、新屋駅、市立病院・山王官公庁周辺地区のバリアフリー化
- 既設市営住宅建替事業
- 市営住宅優先入居制度
- 子育てにやさしい施設の認定(再掲)